

2021年10月10日
テオリア第109号

定価 350円
毎月10日発行
定期購読料 年間 4000円
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア
東京都北区田端1-23-11-201
TEL&FAX 03-6273-7233
ホームページ
http://theoria.info
E-mail: email@theoria.info

ポスト菅にどう対決するか



ウィシュマさん死亡事件の真相究明求め一斉行動＝9月25日

ポスト菅に

どう対決するか

9月3日、菅義偉はオリパラ強行で患者在宅死が相次ぐ医療崩壊を引き起こした挙句、政権を投げ出した。退陣表明直後からマスコミは自民党総裁選一色。10月ポスト菅政権発足、11月総選挙となろうとしている。

2021年総選挙においては、モリカケスクラなどの政権私物化、日本学術会議任命拒否、安保法などの民主主義・立憲主義破壊の責任を追及し、アベスガ政治からの転換を主張していくことが重要だ。

同時に、安倍・菅と自公政権を二代続けて退陣に追い込んだのが「コロナ失政」に対する人々の批判であったことを踏まえれば、コロナショックで拡大した格差

研究所テオリア第10回シンポジウム

中国はどこに向かうか

講演「『一带一路』構想の行方

～世界経済の中の中国

平川 均 (経済学者)

コメント① 「中国の台頭」——世界、周辺部への影響

丸川哲史 (明治大学教授)

コメント② ポスト・コロナの農工たち

稲垣 豊 (ATTAC首都圏@中国研究会)

日時 11月14日(日) 午後1時開場、午後1時半開始

会場 文京シビックセンター26階スカイホール地下鉄後楽園駅春日駅

又はZoom

会場は40人。Zoom申込みは連絡先まで

参加費 一般1000円(テオリア会員500円)

※Zoom申込みは11月11日まで。参加費は研究所テオリア口座(左記)に振込ください。会場参加は当日払いで構いません

研究所テオリア 03-6273-7233 email@theoria.info

郵便振替 00180-5-567296 研究所テオリア

によって困窮している人たちを支援する政策、医療な換していく政策を、長期的な社会ビジョンを踏まえてに光を当てる政策の争点化が必要だ。コロナショックで大儲けしている大企業、総選挙の争点と課題を取り富裕層に応分の負担をさ上げた。(9月25日)

座標塾第17期第5回

いま、MMTをどう考えるか

11月19日(金) 午後6時30分～9時

講師 白川真澄(ピープルズプラン研究所)

会場 ピープルズプラン研究所会議室

又はZoom

参加費 1回1000円(会員500円)

※要申込 Zoom受講申込11月15日

会場受講申込11月18日まで

研究所テオリア 03-6273-7233

email@theoria.info

紙面紹介

座談会 ポスト菅にどう対決するか 橋本久雄・西村光子

柴垣頭郎・白川真澄・吉田和雄……………2～5面

パリンピック聖火リレーの裏側から 前川浩子……………5面

「ポスト・トランプ」のアメリカ民衆と構造的暴力(中) マニエル・ヤン……………6～8面

ポスト菅にどう対決するか

総選挙の争点と野党共闘の政策

菅政権と野党の危機

菅政権が追い詰められて退陣表明(9月3日)。自民党総裁選、10月臨時国会・解散、11月総選挙という流れがほぼ決まっている。座談会の時点では次期政権が決まっていなかったが、総選挙に向けて野党の側はどのような政策を出すべきなのか。何を争点にするべきか議論していきたい。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

市民連合・野党の政策合意

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

コロナ対策と医療崩壊

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

菅本 菅は行き詰って辞めざるを得なくなると見られる。菅は自民党をぶっ壊すと同じ。派閥横断で支持が集まれば、それだけで安倍・麻生・二階の支配する自民党から変わったという「改革」イメージになる。再分配で中間層を豊かにという岸田の主張は枝野・吉田と区別がつかなくなる。

出席者

橋本 久雄 (小平市議会議員、緑の党共同代表)

西村 光子 (安倍改憲NO!オール川崎)

柴垣 顕郎 (緑の党長野・会員)

白川 真澄 (ピールス・プラン研究所)

菅会 吉田和雄 (研究所テオリア)

保健所問題から

浮かび上がること

菅本 東京多摩地域には地域の課題がある。コロナ自宅療養者は、小平市内に8月時点で約400人いた。どこに住んでいて、名前も分からない。電話番号も分からない。その情報は東京都しか把握してない。サポートしようがない。

菅本 東京多摩地域には地域の課題がある。コロナ自宅療養者は、小平市内に8月時点で約400人いた。どこに住んでいて、名前も分からない。電話番号も分からない。その情報は東京都しか把握してない。サポートしようがない。

菅本 東京多摩地域には地域の課題がある。コロナ自宅療養者は、小平市内に8月時点で約400人いた。どこに住んでいて、名前も分からない。電話番号も分からない。その情報は東京都しか把握してない。サポートしようがない。

菅本 東京多摩地域には地域の課題がある。コロナ自宅療養者は、小平市内に8月時点で約400人いた。どこに住んでいて、名前も分からない。電話番号も分からない。その情報は東京都しか把握してない。サポートしようがない。

菅本 東京多摩地域には地域の課題がある。コロナ自宅療養者は、小平市内に8月時点で約400人いた。どこに住んでいて、名前も分からない。電話番号も分からない。その情報は東京都しか把握してない。サポートしようがない。

菅本 東京多摩地域には地域の課題がある。コロナ自宅療養者は、小平市内に8月時点で約400人いた。どこに住んでいて、名前も分からない。電話番号も分からない。その情報は東京都しか把握してない。サポートしようがない。

8回やってきた。ともかくコロナが焦点。ワイドショーと同じ水準。議員も候補者も地域では勉強してない。

白川 東京では都立病院が積極的にコロナ患者を受け入れている。日本の病院は民間8割、公立2割。新自由主義改革で公立病院や保健所を減らしてきた。

司会 尾身は公立病院のコロナ受け入れは低いといっている。日本の場合、病院は増やす必要はない。受け入れの問題だ。

白川 病床は足りていても、感染症の専門医を養成してこなかったし、人口10万人当たりのICU数や医師数はドイツと比べてはるかに低い。SARS流行の後、台湾や韓国はWHOなどの勧告を受けて感染症対策を強化したが、日本政府は対策をとらなかった。

白川 コロナ患者を受け入れれば、人手・コストがかかって赤字化する。それなのに、受け入れ病院への支援は不十分で、遅すぎた。医療機関への支援の予算は届けきれず、3兆円も残っている。

司会 医療従事者への給付金でも、医師・看護師には額が少ないし、病院で清掃、介護補助など労働者には給付されない。

白川 コロナ危機は、新自由主義による医療費削減で医療体制が脆弱になっていくことを曝け出した。ついには「自宅療養」という名の乗民政策まで採られてつぎつぎと犠牲者が出た。医療まで自己責任にされる。日本の社会保障制度は多くの問題があるが、基本的

には誰もがいつでも医療機関にかかれるという国民皆医療保険の制度は優れたものだった。それが崩壊しつつあると、みんな危機感を感ずはじめています。これまでは医療費の膨張が原因と叩かれ、いかに医療費を削減するかという話に世論も誘導されてきた。しかし、コロナを経験して、それではまずい、いかに医療体制を再建し拡充するのかが大事だと気づきはじめて

いるのではないかと。司会 医療崩壊で入院できず保健所と連絡取れず、自分でなんとかするしかない。公的医療が崩壊している。これが個人責任にされて、公的医療崩壊の責任がなすりつけられている。

橋本 都立病院は8つあり、小池都知事は民営化を今でも言っている。

白川 コロナでエッセンシャルワーカーが社会を支えているということが言われた。社会を支えてきた人たちが尊重されるような社会をつくろうと一度言おう。

白川 医療従事者へは慰労金だけで、それも最大20万円を一回切り。ふざけてい

る。みんなの生命を必死に支えている医療従事者の平均賃金は月30万円。IT従事者より20万円も低い。社会にとって本当に必要な仕事への評価が低すぎる。少なくとも月10万円の報酬引き上げが必要。これからは、ケア中心の経済に変わっていくということも考えても当然。

橋本 いま世界全体がやばい。ワクチンパスポートの問題もそうだが、強制する動きが世界では当たり前になっていて、日本でもそういう動きが出てくる。これはかなりやばい。ワクチンだけでは頼ってはいけな

い。常識。私は子どもの接種はすべきではないという立場なので。

子どもは感染が拡大しているとよく言うが、あれも大人が子供にうつして、子どもが友達にうつして、その親にうつす。そういうのを解消する措置を取っていかないと。

一色に染まっていく社会の怖さをマイナンバー問題につなげるとか。その辺をきちんと見ていかないとやばいことになる。

デトロイトトーマスという法律事務所が持続化給付金などの支援制度の民間委託先になっている。担当の対応が本場にひどいという電話があった。役所の暴言の問題もそう、悪質な無低(無料低額宿泊所)への誘導が相変わらず続いている。

先日相談があった19歳の青年はヤクザから逃げてきて、生活保護を受けたのに、入寮させられた無低の寮長がヤクザみたいで、出てきて保護を取り消された。

保健所もそうだと思うが、行政の窓口の対応の問題がある。これらを改めて問題にしていけないといけない。不安もある。

司会 ドイツの総選挙(9月26日)では気候危機が最大の争点になっているが、日本ではそのような動きはないのか。

橋本 ヨーロッパでは市民が中心で政治を動かしている。日本の場合、市民が政治に参加するチャンネルが弱い。決定的に。

ストップ気候危機！自治体議員による気候非常事態・共同宣言の会を立憲から共産まで超党派の地方議員500人弱でつくり、スタンディングを行って

つある。この変化をキャッチしながら運動を広げたい。言っていくが気候危機で対抗するのは難しい。前回の気候危機スタンディングは150自治体で行われた。こういうことを地道にやっていく。

白川 神奈川でも、気候危機でスタンディングをしたら、ホームページを見て初めての人に参加した。大きな動きではないが、確実に動いている。

都議選小金井では、市民運動が野党を共闘させた。反五輪運動もタイムリーに動くことで発信していた。若者・市民運動・SNSと動くことから、原則的な少数派運動が相乗効果を及ぼす。少しづつの力が思いがけないところで大きくなっていく傾向になっている。

だから、自分たちは少数派だ、力がないと悲観することなく、社会を動かせる可能性がある時代になっている。

橋本 人数は少なくても、ネットやメディアで見ている人はたくさんいる。

東京都は五輪で学校連携観戦を実施した。だが、ほとんどの自治体は返上して、中止した。尾身のバッハ批判は画期的。コロナ対応を含めて潮目が変わりつ

つある。この変化をキャッチしながら運動を広げたい。言っていくが気候危機で対抗するのは難しい。前回の気候危機スタンディングは150自治体で行われた。こういうことを地道にやっていく。

白川 神奈川でも、気候危機でスタンディングをしたら、ホームページを見て初めての人に参加した。大きな動きではないが、確実に動いている。

消費減税ではダメ

司会 仮に河野政権になれば、デジタルとグリーンで打ち出してきた。税金問題は消されてしまう。

コロナ対策、現金給付と共に、ケアを中心にした社会という将来社会像をきちんと出さないとけない。

橋本 MMTのような考え方があって、消費税5%が言われている。緑の党は消費税5%には反対しませんが、それだけを抜き出して政策に出していくのには反対している。

白川 小泉政権時代と違って、格差が拡大して貧困に苦しむ人が急増した時代になった。だから、自民党が「改革」を打ち出すと、それなりに人々を引き付けるだろうが、小泉時代ほど人々の心にストンとは落ちないだろう。

いまの時代には、「改革」に対して、現金給付で困っている人への公的支援を強化する。医療や介護は無償化する。医療や介護は無償化してスタッフを増やす。

気候危機の政策は

司会 ドイツの総選挙(9月26日)では気候危機が最大の争点になっているが、日本ではそのような動きはないのか。

橋本 ヨーロッパでは市民が中心で政治を動かしている。日本の場合、市民が政治に参加するチャンネルが弱い。決定的に。

ストップ気候危機！自治体議員による気候非常事態・共同宣言の会を立憲から共産まで超党派の地方議員500人弱でつくり、スタンディングを行って

政策提言を市民が議論することの面白さを共有したい。どのような社会ビジョンを作るかを専門家任せではなく、市民の中で議論して練り上げ提案していく。

横濱市長選挙でも、ある市民の会が議論を重ねて作った政策提案は、すごく良くできていた。山中陣営の最初の提案より優れていた。市民の中にはそれだけの力がある。

橋本 若者たちは政治的経験がない。ないからダメではなく、ないところからスタート。それをうまくサポートしていくということ。

司会 神奈川ではリニア、カジノの運動があって、それが野党共闘につながった。地域課題があって、それが野党共闘を動かしていくというのは理想的な形だと思っ

都議選小金井では、市民運動が野党を共闘させた。反五輪運動もタイムリーに動くことで発信していた。若者・市民運動・SNSと動くことから、原則的な少数派運動が相乗効果を及ぼす。少しづつの力が思いがけないところで大きくなっていく傾向になっている。

だから、自分たちは少数派だ、力がないと悲観することなく、社会を動かせる可能性がある時代になっている。

橋本 人数は少なくても、ネットやメディアで見ている人はたくさんいる。

東京都は五輪で学校連携観戦を実施した。だが、ほとんどの自治体は返上して、中止した。尾身のバッハ批判は画期的。コロナ対応を含めて潮目が変わりつ

反貧困の政策を

司会 格差・貧困の現場がどうなっているのか。

私の問題意識は「自己責任社会からコモン社会へ」。自己責任社会を終わりにしようといいたい。コロナの問題、格差・貧困の問題に共通している。

橋本 小平市は約9万5000世帯の内、9000世帯が生活保護水準以下。生活保護を受けているのは、その3割。

市内で9000世帯1方5000人が生活に困窮している。この人たちのどの

よう光を当てていくか。健康保険は年収30万円で課税される。減免措置があるが。

こういうことをもっと言っていけないと、応援してくれる人は増えていかな

司会 貧困問題は根深い。生活保護利用率がほとんど増えない。役所は窓口で申請者をどんどん追い返している。

緊急小口貸付など助成金、支援金を借りられるだけ借りてきたが、期限が来て、どうにもならない。8月21日の電話相談会でも、そういう相談がたくさんあった。コロナの相談窓口につながらないという心理的不安もある。

デトロイトトーマスという法律事務所が持続化給付金などの支援制度の民間委託先になっている。担当の対応が本場にひどいという電話があった。役所の暴言の問題もそう、悪質な無低(無料低額宿泊所)への誘導が相変わらず続いている。

先日相談があった19歳の青年はヤクザから逃げてきて、生活保護を受けたのに、入寮させられた無低の寮長がヤクザみたいで、出てきて保護を取り消された。

保健所もそうだと思うが、行政の窓口の対応の問題がある。これらを改めて問題にしていけないといけない。不安もある。

都議選小金井では、市民運動が野党を共闘させた。反五輪運動もタイムリーに動くことで発信していた。若者・市民運動・SNSと動くことから、原則的な少数派運動が相乗効果を及ぼす。少しづつの力が思いがけないところで大きくなっていく傾向になっている。

だから、自分たちは少数派だ、力がないと悲観することなく、社会を動かせる可能性がある時代になっている。

橋本 人数は少なくても、ネットやメディアで見ている人はたくさんいる。

東京都は五輪で学校連携観戦を実施した。だが、ほとんどの自治体は返上して、中止した。尾身のバッハ批判は画期的。コロナ対応を含めて潮目が変わりつ



市民連合・野党が政策合意



野党支持候補が勝利した横浜市長選

無党派層に働きかける

白川 内閣支持率が下がって、でも自民党支持率は下がって

(3面から続く)
税を減税する分を、低所得層や困っている人に現金給付した方がずっと有効。また、安倍が消費税10%増税を打ち出した19年参院選でも自民党は負けなかった。そのことを反省せず、賞味期限の切れた主張を繰り返すのは勝てない。米国やイギリスは、増税による「大きな政府」に転換している。減税を訴えれば支持を得られるという思い込み、減税ポピュリズムと訣別しようと言いたい。

橋本 税制案をもって街に出て、解りやすく話していかないといふ関係を変えていく。新政策に対抗して、野党が現金給付を主張していくべき。

付金の対象は30万世帯だったが、実際に申請したのは5万。様々な支援制度があるが、とまかく使いつらい。大企業は支援制度を使っているが、末端まで下りてこない。現金給付は分かりやすい。

橋本 街頭演説でも、野党は現金給付を言っていない。支給対象を制限していいから2回目の現金給付をもっと言わないと。

白川 全くその通りだ。低所得者、収入減少した人は3000万人。そこに10万円ずつ4回配っても12兆円。出せない金額ではない。新政策に対抗して、野党が現金給付を主張していくべき。

柴垣 私の実感では政党離れはさらに進んでいて、与党2割、野党1割、無党派7割というのが実情かもしれないと思う。内閣支持率が下がっても政党支持率は変わらないというよりも、日本全体を政治不信が覆っていて、政策以前に政治という領域が信用されていない。

白川 無党派の人たちをどうしたら動かせるかが一番大きな課題。やはり政治争点の設定の仕方がカギ。09年は政権交代か否かが争点になり、争点があつてきりし

橋本 野党が政権に代わる

ておらず、立憲・共産の支持率も上がってこない。これをどう見るか。

10年代に入ってから、保守とリベラル・左翼の力関係は変わっていない。小野英二は自民党内の声を紹介して、日本の有権者は保守3割、リベラル2割、無党派・棄権が5割と分析した。17年の総選挙で見ると、保守(自公)3割弱、リベラル・左派(立憲・共産)2割弱、ネオリベ改革派(維新など)1割、残りの4割が無党派・棄権。総選挙でも投票率は6割を切っている。仮に連合がある候補を推薦したとしても、組合員の家族はおそらく投票していない。今の労組という枠組みでの支持獲得は、あまり意味がなくなってきた。これは、横濱市長選挙もそのことを証明した。

柴垣 私の実感では政党離れはさらに進んでいて、与党2割、野党1割、無党派7割というのが実情かもしれないと思う。内閣支持率が下がっても政党支持率は変わらないというよりも、日本全体を政治不信が覆っていて、政策以前に政治という領域が信用されていない。

白川 無党派の人たちをどうしたら動かせるかが一番大きな課題。やはり政治争点の設定の仕方がカギ。09年は政権交代か否かが争点になり、争点があつてきりし

橋本 野党が政権に代わる

野党共闘をめぐる

柴垣 野党共闘の実現はと

縮小版だった。立憲は倍増し、野党共闘の漢人あきこも当選した。国政への批判が野党躍進を招いたと言え

漢人選挙は「市民が動けば政治は変わる。地域から変える」というのが基本的考え方。運動を作った。野党推薦だったが、政党の職は一つも出さなかった。市民運動が活発な地域で市民選挙をやったことで圧勝できた。

西村 地域で野党共闘を進めてきた人たちは、管批判をしてこれ勝てると思っていたが、管不出馬でマス

宣の時にこの地域ではこういう課題があるよねと。そういう課題を解決していくことの積み重ねで、候補者を勝たせる。そういうことをやっていかないと。

東京で国政で政権交代だということだけでは、市民が政治に参加するチャンネルを増やすことはできない。この自治体も様々な課題がある。そういうことと結びあっていく。

自分たちの暮らしのこと、考えてくれている政党、候補者なんだということ、分かれると印象が変わってくる。

やはり、政権交代だけでは無党派層の人たちはなかなか動かない。街宣をやっていると本当に反応がない。しかし、昔と比べて、じつところを見ながら聞いてくれる人は確実に増えていく。

柴垣 野党共闘の実現はと縮小版だった。立憲は倍増し、野党共闘の漢人あきこも当選した。国政への批判が野党躍進を招いたと言え

漢人選挙は「市民が動けば政治は変わる。地域から変える」というのが基本的考え方。運動を作った。野党推薦だったが、政党の職は一つも出さなかった。市民運動が活発な地域で市民選挙をやったことで圧勝できた。

西村 地域で野党共闘を進めてきた人たちは、管批判をしてこれ勝てると思っていたが、管不出馬でマス

共同テーブルと共闘

橋本 私は共同テーブルに

参加してないが、こういう動きを作ることが大事。これを社民党の応援団にしないで、いろんなところで発言をしながら、ネットワークを広げていく。注目に値する動きの一つ。

白川 呼びかけ人は旧来の左派の知識人・活動家で、気候危機や脱原発運動の若

動いたが。選挙全体で考えたら、市民が直ぐ動くことはない。

増えている困窮している人に届く政策は、審査なしの現金給付が分かりやすい。白川 そう思う。現金給付では申請した人には審査なしで全員渡して、所得が高いのに受け取った人には後で課税して返してもらおう。

財源はコロナ危機に株で儲けた富裕層や驚くべき利益を上げている大企業に税負担させる。この点を押し出していけば、自民党新政権との違いがはっきりしてくる。

司会 このような議論を地域での議論で野党に突き付けていく必要がある。地域課題もあるが、プラスして選挙での争点というところをひきつけたい。

白川 岸田の所得倍増政策は、かつての経済成長時代のイメージ。しかし、ポストコロナは人口減少時代。ケア中心の経済で、医療・介護で働く労働者の賃金を大幅に引き上げる。同時に人口減少に見合う地域社会を創っていく。大都市への一極集中構造を変える。

横濱市長選挙でも、市民運動は勝利したが、将来の横濱をどうするか議論が十分にされていない。横浜市庁舎も高層ビルに建て替えられた。ますます巨大化する都市という開発路線ではなく、人口減少時代に見合う「縮小する大都市」、「耕す都市」というビジョンが求められる。横濱は都市農業を大事にしてきた大都市。農業を大事にして、空き家・空き部屋を活性化させる。

柴垣 野党共闘の実現はと縮小版だった。立憲は倍増し、野党共闘の漢人あきこも当選した。国政への批判が野党躍進を招いたと言え

漢人選挙は「市民が動けば政治は変わる。地域から変える」というのが基本的考え方。運動を作った。野党推薦だったが、政党の職は一つも出さなかった。市民運動が活発な地域で市民選挙をやったことで圧勝できた。

西村 地域で野党共闘を進めてきた人たちは、管批判をしてこれ勝てると思っていたが、管不出馬でマス

パラリンピック聖火リレーの裏側から 見せつけられた理解の低さ

前川浩子 東京・府中市議会議員

2021年夏、コロナ感
染拡大で開催されたオリ
ピック、パラリンピックは、
多くの物議を引き起こし
た。その様な中、行われた
パラリンピック聖火リレー
に、聖火ランナーとして友
人T君が参加した。彼は車
いす利用の重複障がい。市
内で一、二を争う自己主張
の強さでヘルパーが続かな
い。しかし、10年ほど前ま
ではアシリートとして活躍
し、ピンスバック(投て
き)では、国体で2位。他
にも車いすハーフマラソン
では関東大会入賞を果たし
たこともある。そんな彼だ
からこそ、パラリンピック
聖火ランナーとしての参加
に相応しいと考えた。私は
長年T君専属のヘルパーで
あった。

応募は2019年夏、延
期になっても連絡が来るわ
けでもなく、聖火リレーは
行われるのかと心配してい
たところ、2021年4月
新年度になってから、応募
先の東京都ではなく、オリ
ンピック組織委員会聖火リ
レーデスクというところか
ら、連絡がくるようになった。
私の友人T君は知的障が

いでもあるので、全ての連
絡は私に来るよう調整した
が、応募した際のデータが
東京都から組織委員会に
渡っていないのか、何回も
データ送付の依頼が来る。
意地の悪い私は、東京都に
問い合わせをし、とその
度に伝えた。ランナーへの
連絡がCCで送られてきた
こともあった。情報の管理
が全くできていない。個人
情報保護がされていない。
恐ろしいことである。

再々度交渉。最終的に介助
が認められたが、今度は議
員は介助者になれない、と
言ってきた。そこから、介
助者探し。運よく愚息のス
ジュールと合ったので登録
したが、また再度登録の依
頼が来る。情報管理が全く
なっていない。

そうこうしている内に、
聖火リレーの公道走行中止
となった。が、詳細は一向
に来ず・・・聖火リレーの
会場は砧公園。集場所は
駒沢体育館。会場変更の知
らせには、体育館、砧公園
の会場の仕様の詳細説明が
無かった。組織委員会に問
い合わせたところ、「東京都
がやっていることなので、
分からない」と啞然とする
ような答え。東京都は「無
観客になったので、会場の
仕様は公表しない」との答
え。また、私が爆発！事
前の情報は非常に大切であ
る。それを理解せず、「無観
客だから公表はしない」と
は、考えられない事態であ
る。参加者の事は徹摩も考
えていないのが明らかで
あった。

聖火リレー当日、朝早く
から準備し、南武線まで歩
き、改札で「手帳を見せて
ください・・・まだそんな
こと言ってる。「お宅様の手
帳を見せたら、こっちも見
せる」と伝え、突破。南武
線の駅は電車とホームの間
の段差、隙間が大きく非常
に危険。
渡り板を持ってきた駅員
が、「一番前か一番後ろで
す。」と言うので、乗りたい
所に乗る、と伝えると駅員

が居なくなった・・・無情
にも電車が行ってしまう。
JRの対応の悪さは一向に
改善しない。田園都市線
では問題なく乗降できた。
駅を出て、駒沢公園に向
かう。まさか道案内の看板
の一枚くらいあるかと期待
したがバカだった。周囲
の人に助けられながら公園
へ。公園の中にも看板は無
く、集場所の体育館の前
にも無い。自宅から駒沢体
育館に至る道のりで痛感し
たのは「あっそー全て自己
責任って事ね！」腹が立っ
て仕方がない。

駒沢体育館は細工はして
「そんな事とはなんという
言い草だ」と、またまた爆
発。最終的に私の介助を認
めさせた。元々、私はT君
のヘルパーであり、誰より
も彼のことを分かっている。
議員と一括りにするのは
不適切である。

3センチ程のゴムの板が敷
かれていた。事前に走行テ
ストをしたのか、と聞いた
時に「前にもやっていたか
ら大丈夫です」とのいい加
減な答えが返ってきた。走
行エリア以外では、ゴム敷
は端切れをかき集めたよう
な箇所もあり、これではT
君は自走では行けない。

その後、延々と取材等が
続いた。結局は、こいつ等
は画が欲しいだけなのだ。
会場のスタッフに、数々
の問題点を指摘し、話をし
たが反応は鈍い。次の日に
リレーデスクに電話をした
が、時間外であるというア
ナウンスが流れるのみ。東
京都に電話をし、この次

障がいへの
知識が無い

更に、パラリンピックで
ありながら、障がいへの知
識が全く無い。介助が必要
な人は介助者を登録する。
しかし、その前後には介助者
のみ。その前後には介助者
は認められない。T君はパ
ニックもあるので、彼が安
全安心にリレーに参加する
には、ケアする人間が常時
必要であると説明したが、
即座に「ダメです」と一言。
介助が必要であるという事
を全く理解しない。私の怒
りに火が付き、長いメール
をあちこちに送り、再度、

程遠い
バリアフリー

聖火リレー当日、朝早く
から準備し、南武線まで歩
き、改札で「手帳を見せて
ください・・・まだそんな
こと言ってる。「お宅様の手
帳を見せたら、こっちも見
せる」と伝え、突破。南武
線の駅は電車とホームの間
の段差、隙間が大きく非常
に危険。
渡り板を持ってきた駅員
が、「一番前か一番後ろで
す。」と言うので、乗りたい
所に乗る、と伝えると駅員

無。
行政のごとくに説明を聞
き、小さなグループとなり、
トーチリレーの際のポーズ
等を決める等、ゲーム感覚
の話し合い。トーチの持ち
方の練習。とても楽しそう
だった。

トーチ購入は
しつこく

安全とは言いが難かった。
が、聖火リレーが終わり、
何故か車いす利用者のみ
が、駐車場へと急ぎ立てら
れた。集場所の駒沢体育
館に戻っても、車いす利用
者ではない人達は帰ってこ
ない。3、40分後に戻って
きた人達は、沢山のグッズ
を持っていった。応援ブー
スに寄ってきた、と聞いた。
そう言えば、聖火リレー
終了後、会場内の応援ブー
スへおいで下さい、とリ
レーの前に案内があったの

景が違うが、デンマークや
スウェーデンでは増税を主
張した政党が勝っている。
橋本 同感です。
白川 もっと議論を起こす
べきだ。共産党の共闘重視
の姿勢はいいが、言うべき
ことまで言わなくなってい
る。活発な政策論争は、活
力を高めるはず。
新首相の指名のための10
月初めの臨時国会で、新政
権がどのような政策を打ち
出してくるのか、まだ予測
できないが、野党の側から
現金給付などで対決軸を出
していくべき。
国会 政策の共通項を消費
税減税ではなく、コロナで
稼いだ人への増税をとする
必要がある。その点を出し
ていく必要があるのではな
いか。
(9月22日改稿)

(4面から続く)

アジェンダを どう設定できるか

白川 あらためて総選挙で
は、ニュー自民政権と何
をもつて対決するのか。
コロナ危機の中でも医療
拡充より公共事業やG・T
oキャンペーンが優先さ
れ、予算が30兆円も余った
りしている。曲がりなりに
も維持されてきた日本の公
的医療制度が崩れて、コロ
ナに感染しても病院に入れ
ない。不安が募る「自己責
任」社会。

は、人びとの中で認識され
つつある。漠然とコロナ対
策の拡充を言うのでは不
々。端的に、医療従事者の
報酬を月10万円引き上げ、
大勢の人にスタッフとして
働いてもらう。報酬引き上
げに必要なのは、3・4兆
円にすぎない。

同時に、コロナの中で格
差が開いて、儲けている人
はものすごく儲けている。
そういう人たちに自分の税
を負担させるとい主張
は、これまでよりリアリ
ティも正当性も増してい
る。分かりやすく言えば、
共感を呼ぶ可能性は大きい
と思う。日本とは歴史的背

を思い出した。車いすユー
ザーは参加できなかった。
参加させなかったのか。排
除か。怒りで体が震えた。
特に、府中市のグループに
は、特別支援学校の生徒も
いる。子ども達がなんと
思ったか。スタッフに説明
を求めたが、明確な答えは
無い。

聖火リレーの当日、T君
のような重度の障がいの人
は見かけなかった。何が共
生だ。聖火リレーの映像
が流されるのを見るたびに
欺瞞を感じる。
日本のバリアフリー、障
がいへの理解の低さをま
まごと見せつけられる聖火
リレーであった。

「ポスト・トランプ」の アメリカ民衆と構造的暴力

(中)

マニユエル・ヤン 民衆史・歴史社会学

議事堂襲撃事件の下地

トランプ支持者のストッ
プ・ザ・ステイール運動の
重要な原典の一つは、20
20年のコロナ禍における
反ロックダウン抗議であ
る。

2021年1月6日の連
邦議事堂襲撃事件の発端
は、大統領の座にがみつ
くトランプの最後の悪あが
きにある。当選したのは自
分であつてバイデンではな
い、バイデンが当選した州
や地域は民主党による不法
妨害行為によるものだとい
う根拠にもない嘘を繰り
返して訴訟を起こしたり
して、集会を開いてスピー
チをした。こんな破廉恥で
非常識きわまりないことは
どの前任大統領もやったこ
とがない。例えば2000
年に僅差でジョージ・W・

ブッシュに負
けた民主党の
アル・ゴアも、
1960年に
やはり僅差で
ジョン・ケネ
ディに負けた
共和党のリ
チャード・ニ
クソンも負け
を深く認め
た。それが政
治家のマナー
だった。トラ



ンプはそれを完全に無視し
た。代表制民主主義が機能
不全に陥っていることが白
日の下にさらされたと言っ
てもいい。

テレビ放映が初めて導入
された60年大統領候補討論
会では、ニクソンとの討論
をラジオで聴いていた人の
過半数はニクソンが勝った
と判断し、テレビで討論を
視聴した人の過半数はケネ
ディが勝ったと判断したと
いう有名なアンケートがあ
る。大統領選がマス・イメー
ジとして宣伝・消費される
現象として画期的だった。

そうした空疎なイメージだ
けの大統領権を80年代に
ロナルド・レーガンは完成
させた。長年ゼネラル・エ
リクトリック社の宣伝マン
を務めたレーガンの演説は
企業プロパガンダのまか
せばかりだったが、耳ざわ
りが良く、アメリカ国民を
安心させ、大衆受けした。

(ケネディもレーガンも人
道に対する罪を多く犯して
いることは言うまでもない
が)その醜悪な到達点がト
ランプだ。

そうしたトランプの演説
集会を聞きに集まった群衆
は議事堂を襲撃した。武装

している群衆の一部は議員
の部屋に押し入ったり、狼
藉を働いたりした。逮捕者
のなかには元オリピック水
泳選手のクリート・ケラー
やニューヨークのブルック
リン最高裁判事の息子アロ
ン・モストフスキーやヘビ
メタバンドのボーカリスト
のジョン・シェーファーや
保守派の名門家ボゼルの
L・フレント・ボゼル3世
といったブチ有名人やエ
リートも含まれているが、
ほとんどは一般人だった。

人たちがいる。そうした批
判の思想的根拠になってい
るのは、リチャード・ホー
フスタッターの『アメリカ
の反知性主義』という古典
的な著作だ。

64年にピューリッツァー賞
を受賞してまだ読み継が
れている本書の中で、ホー
フスタッターは日本語版の
表紙に写っているウィスコ
ンシン州上院議員ジョセ
フ・マッカーシーがばら撒
いた嘘がどのようにアメリ
カの文化的土壌に根づいた
かを説明している。マッ
カーシズムの嘘というのは
は、共産主義者がアメリカ
政府に侵入して国家を乗っ
取るうしているという政治
的被害妄想(パラノイア)

だ。このデマは政府やマス
コミが企業や教育機関を通
じて50年代のアメリカ社会
に蔓延し、赤狩りという言
論の弾圧につながった。

そうした被害妄想的な政
治恐怖の歴史的背景をホー
フスタッターは次のように
説明する。アングロサクソ
ン・プロテスタント教徒で
はないヨーロッパ移民やカ
トリック教徒やユダヤ人に
対する排外主義や差別がア
メリカ大衆の反知性主義、
陰謀論が議事堂を襲撃した
群衆の行動を一部動機づけ
ている。

この現象を目的のあたりに
して、右翼はバカだとか、
反知性主義だとか、つまり
理性や知性を忌み嫌み偏見
に満ちた排外主義的な感情
に訴える嘘や神話を信じる
狂信者だとレッテルを貼る

闘ったアメリカ大衆や労働
者の知性も歴史に繰り返し
発揮されたということだ。

例えば19世紀には黒人奴隷制
廃止を可能にした黒人と白
人の奴隷制廃止論運動が
あったし、人種やジェン
ダー差別や戦争に反対して
労働者全員を一つの大きな
組合に組織しようとした
Industrial Workers
of the World(世界
産業労働者、ワブリスと
いう愛称を持つ労働活動家
たちがいたりした。本書が
出版されたまさに1963
年には公民権運動があり、
そこにも大衆や民衆の知性
が明白に躍動していた。

じつさい、トランプ支持
者を「反知性主義」呼ばわ
りしても、それはなんの説
明にもならない。大事なの
はこうした群集心理がどの
ような社会関係や階級関係
から生じているかを検証
し、その歴史的背景を見て
いくことだ。

例えば、襲撃者について
次のような統計が出てい
る。彼らのほとんどは35歳
以上の白人男性、80%以上
が有職者、そのなかで30%
がサラリーマンで15%近く
が自営業者だ。逮捕者の90
%近くはwhite
middle classと呼ばれる白人
市民軍や過激な極右団体と
なんの関係もなく、少なく
とも15%は軍隊や警察関係
者だ。つまり、彼らは白人
の下層階級ではなく、どち
らかと云えばミドルクラス
に属する人たちである。誰
でも努力すれば成功できて

富も社会的地位も得られる
という「アメリカン・ドリー
ム」を信じて疑わない階層
だ。少し変わった言い方を
すると、「アメリカン・ド
リーム」を可能にした福祉
資本主義の下部構造が破壊
されてきた現実に直面する
合理的な方法や情報を手に
入れることができず、ネッ
トやラジオやケーブルテレ
ビでアクセスしやすい極右
陰謀論でその不条理を理解
しようとする人たちが
だ。

これは厳密には「反知性
主義」というよりも、現実
の矛盾を説明する「知性」
に飢えて騙された白人の大
衆が迷走したとどろ着いた
姿だ。事実に対するバカバ
カしい説明に必死にしがら
ぐらい、彼らの現実や生活
を支えてきた既成概念は破
綻している。その怒りや不
満の捌け口を政府にぶつ
け、基本的に反国家主義的
立場を取る。政府を「ピッ
グアラサー」的な危険な権
力として忌み嫌う理由は、
自らの生活水準が低くな
り、権利が奪われているの
は肥大化する国家権力のせ
いだと思っているからだ。

一見、それはアナキズムの
健全な反権力的要素を共有
しているように見えるし、
異なった歴史的文脈や条件
においてはそう転化し得た
かもしれない。

だが、アメリカ右翼の反
国家主義はレーガン政権を
はじめとする新保守が長年
展開してきた政府・官僚制
批判の資本主義プロパガン

だに強い影響を受けてい
る。官僚制と闘って政府の
役割を縮小するという名目
で、企業に対する政府の規
制を緩和し、一般大衆の福
祉をなし崩しにする政策を
レーガン率いる共和党は開
拓した。国家権力はもちろ
ん抑圧的なものだが、労働
運動や民衆闘争によって民
主化された側面もある。徴
兵制度の廃止や社会福祉や
投票権の拡大がそれに当た
る。だが、そうした国家の
民主的な部分だけが攻撃さ
れた。その反面、軍事や警
察や企業への莫大な予算は
ぶくぶく膨らみ、そうした
反民主的国家的側面は強化
されるばかりだった。ノー
ム・チョムスキーが指摘す
るように、こうした新保守
の立場はより正確には「反
動的國家主義」と呼ばれる
べきである。

そうした「反國家主義」
の射程から完全に外され隠
蔽されているのは、社会を
じつさいに動かすその枠組
みを作っている企業や資本
の権力だ。政府や国家さえ
押さえつけば個人は自由
になり、アメリカ憲法が本
来の機能を取り戻すという
アメリカ右翼の個人主義的
イデオロギーは確かに個人
の自由や権利を尊重する。

だが、資本が支配する社会
で政府の機能を弱体化させ
ることは個人の自由ではな
く、個人をより束縛し搾取
する資本の自由を拡大する
ことしか意味しない。

白人の大衆を議事堂襲撃
に駆り立てたのは、アメリ

が、ここで欠落してい
る重要な認識は排外主義と

力的ネオリベ資本主義が生み出した特有のポスト真実

ポスト真実の政治と ポストモダンの脱政治化

政治の現実世界が宣伝やデマやヤラセで上塗りされたフィクションによって塗りかえられる。現実が仮想に書き換えられて凌駕される。真実が嘘に追い抜かれる。こうした現象は「時代の精神」みたいなものとして扱われ、最近はいくつかpost-truthという言葉で呼ばれている。「ポスト真実」あるいは「真実の後」と文字通り訳せるpost-truthが現代政治で広く使われるようになったきっかけは、2016年に起こった二つの出来事である。

一つ目の出来事は米大統領選で、二つ目の出来事はブレクジットすなわちイギリスがEUから離脱する国民投票だ。両方とも、嘘が多くの人たちを虜にして、それが政治の現実を変えてしまう。ブレクジットの場合、EUのメンバーであることでイギリスは毎週3億5千ポンドをEUに支払っているというほぼ嘘に近い誇張が離脱派によってイギリス国民のあいだで広く拡散された。いくらそれが事実ではないことが実証的に指摘されても無視されてブレクジットが国民投票で通ってしまう。

だが、post-truthは単にどのような嘘やデマかせ

由な民衆として自由に選択したのだ。」

テシックによると、ウォーターゲート事件、ベトナム戦争をうけて、アメリカ国民は戦争に反対したり、政府の嘘を暴露することに賛同してきた。

しかし、イラン・コントラ事件でレーガンが嘘をついても国民の多くが彼を信じた。そして、91年にブッシュ父による第1次湾岸戦争がスペクタクル的に報道されると、それをうのみにしてブッシュの嘘を信じた。つまり、アメリカ国民は政府やマスコミの嘘を信じて戦争を応援する「愚民」に自ら進んでなったことをテシックは憂いている。

post-truthを現在の政治の文脈で初めて使ったのがアメリカのセルビア系脚本家ステイヴ・テシックだ。92年に彼はイラン・コントラ事件と第1次湾岸戦争の報道をめぐって『ネーションズ』誌で初めて「ポスト真実の政治」という言葉を使った。彼はそこでこう書いている。

「全体主義的怪物は夢の中でよだれを垂らして欲求するような大衆の原型にわたしたちはいち早くなりつづある。今日までの独裁者は真実を握りつぶそうとやってきていた。わたしたちの行動が物語っているのは、これが必要なくなり、真実からどのような意味もはく奪できる精神的メカニズムを手に入れたということだ。非常に根本的な意味である種のポスト真実的世界に住みたいと私たちは自

アレゴリーで、自由よりも安心させてくれる嘘、すなわち「ポスト真実」を人間は好むのかどうかという実存的な問いを立てている。

テシックはアメリカ民衆が大審問官が想定するような、自由を犠牲にして権力が与える嘘の安心感にすがりつく民衆になったと危惧している。

しかし、テシックの主張の半分は当たっているが、後の半分は間違っている。91年、全米各地で湾岸戦争に対する反戦デモが起きた。これは画期的な出来事だった。60年代初頭にケネディ大統領がベトナムに海兵隊を派遣しベトナム戦争の口火を切った際、反対は皆無に等しかったからだ。

65年にリンドン・ジョンソン大統領がベトナム戦争をエスカレートしてベトナム民衆を大量殺戮し、米兵たちの多くも死体になってアメリカに帰ってきた。その後も、反対運動は盛り上がりなかった。少数の人たちが反対しようものなら、大審問官は彼を問い詰める。

「なせあなたは戻ってきたのだ。あなたは人類に自由を与えようとしている。人類は自由なんかいらねえんだ。自分の腹さえ満たしてくれる権力者がいれば、自由なんかかなくなり捨てて奴隷になるのが人類なんだ。」

つよくなった。こうした民衆の趨勢がカトリック左派活動家などによる反戦運動の直接行動とつながって新しい運動文化を作り上げた。それが91年の湾岸戦争の始まる前から全国各地で組織された反戦デモの源流になっている。

アメリカの大衆文化の本来の意味での民主化がそこに思いついている。

2003年、息子ジョージ・W・ブッシュがイラクを侵略する直前にさらに大規模な形で世界史上最大の反戦デモが世界中で組織された。戦争を止めることはできなかったが、こうした前代未聞の運動の広がりは現代史において大衆の知性が目覚ましく働いていることの証(あかし)であり、テシックの愚民論を反証している。

民衆の主体がなくなったというテーゼは、ちょうどテシックが「ポスト真実」を政治的文脈で語り始めていた時期に流行し始めていた「ポストモダン」言説においても流布されていた。例えば、91年にマルクス文学理論家フレドリック・ジェイムソンは名著『ポストモダンニズム——後期資本主義の文化的ロジック』を上梓し、主体が死滅した新しい世界資本主義の状況を論じている。「ポストモダン」現象を分析したもっと優れた論考の一つである本書は、産業資本が衰退し、金融資本がヘゲモニーを握り、生産過程が分散化され

市場がすべてを覆い尽くす消費資本主義のさまざまな新しい「文化」の様相に目を向ける。そこでは主体が消滅し、革命や社会変革といった「大きな物語」が不可能になり、現実と仮想を識別する認識能力や歴史意識さえもが不透明になっていくという考え方が理論的に打ち出されている。

市場がすべてを覆い尽くす消費資本主義のさまざまな新しい「文化」の様相に目を向ける。そこでは主体が消滅し、革命や社会変革と

いった「大きな物語」が不可能になり、現実と仮想を識別する認識能力や歴史意識さえもが不透明になっていくという考え方が理論的に打ち出されている。

その後「新自由主義」と広く呼ばれることになる資本主義の構造変化を把握する上で示唆に富むところが今でも多くあるが、全体性の観点からすべての現象をシステムそのものに還元し、現存する階級闘争を見ななくさせるきらいがある。例えば、ポストモダンの建築の代表としてポナヴェンチャーホテルを取り上げ、興味深い美学的・認識論的分析を行なっている本書のくだりをマイク・デイヴィスはこっぴどく批判している。

ポナヴェンチャーホテルを建設したり、そこで働き組合闘争を行なってきた労働者の存在がジェイムソンの分析にはまったく不在だ、とデイヴィスは指摘する。労働者の力によって資本が具現化した巨大な生産商品だけが一人歩きしている。皮肉なことに、ジェイムソンの知的に洗練されたマルクス主義理論からは、マルクスが解明した物神化の現象が再現され、労働者の主体が忘却されてしま

う。デイヴィスの批判は

ごく真つ当だ。それは資本の力だけが経済を動かす主体だと一元的に見てしまう多くのマルクス経済学などにも当てはまる。

デイヴィスやフリードマンやルーサー・カターなどのフレッチャー・セオリーを「ポストモダンニズム」や「ポスト構造主義」として当時消費していたアメリカのアカデミズムの風潮は、マルクス主義そのものを「大きな物語」として捨て去った。変動期の資本主義構造を不透明にする文化的議論に徹し、闘争の主体を「本質主義的」なものとして否定した。こうした言説が人文科学に浸透し始めたのは、共和党的レーガン政権によるサブライ・サイド(供給重視)の経済を民主党的クリントン政権の新自由主義がさらに推し進めていた時期だった。しかし、ポストモダンの言説にうつつを抜かした知識人は、そうした現状を

現実に対する批判能力がほぼ何もなかったにもかかわらず、ポストモダンニズムは西洋文明の評価を失墜させ、伝統的な家父長制やキリスト教的道徳意識を攻撃する相対主義を扇動するという理由で保守の矢面に立たされた。多元文化主義、フェミニズム、マルキシズムと一緒にアラブ・イスラームのベスタセラー「アメリカン・マインドの終焉」やフォックスニュースと

理性的に分析しそれに対抗する運動に寄与することを怠った。「理論」という象牙の塔に閉じこもり手をこまねき、結局は新自由主義を承認する物語(ナラティブ)を構築した。

新自由主義のもとで社会福祉の安定が崩壊され、工場が閉鎖され、生活できる賃金が保証されていた仕事が消えていく。そこでは労働者や人間の主体が認識論的に不安定で定義が困難な崩壊状態に直面していたかもしれない。しかし、それを「ポストモダン」的なものと名づけて、人間は終焉し主体など存在しない、すべて文化的に構築された仮象に過ぎず現実を把握できないという学術的に正当化する社会的意味しか持たない。

ポナヴェンチャーホテルを建設したり、そこで働き組合闘争を行なってきた労働者の存在がジェイムソンの分析にはまったく不在だ、とデイヴィスは指摘する。労働者の力によって資本が具現化した巨大な生産商品だけが一人歩きしている。皮肉なことに、ジェイムソンの知的に洗練されたマルクス主義理論からは、マルクスが解明した物神化の現象が再現され、労働者の主体が忘却されてしま

「自由主義史観」や西尾幹二「国民の歴史」といった反動的ナショナリズムだ。(日本とアメリカの体制をそれぞれを無批判に自己肯定するという違いはむしろあるにせよ)こうした「独善国家史観」の流れが90年代後半に台頭し、現在のより露骨にレイシストな嫌韓・嫌中言説の地下に上っていることは言うまでもない。

アメリカにおいてこうした議論の軸が主流政治の場面ではっきりと言語化されたのはテシックが論考を書いた92年に、共和党予備選で負けたバット・ブキャナンが共和党全国集会で行ったブッシュ支持の演説だ。ブキャナンはリチャード・ニクソンのスピーチライターで、大統領だったトランプを熱烈に支持してきた極右政治家である。

ブキャナンはこの歴史的な演説で「冷戦は終わった。冷戦に続く新しい戦いは『文化戦争』だ」と宣言する。「文化戦争」においてブッシュはわたしたち保守の側、つまり中絶反対、銃規制反対、福音派的な宗教的価値を擁護する側に立っていると述べた。そして敵対者として文化的にリベラルなクリントンたちを位置づけ、「戦争」という物騒なアナロジーを用いた。

しかし、少し考えてみればわかることだが、この物言いはとても奇妙な発言

リズムの逆の意味を持つ「自由主義史観」や西尾幹二「国民の歴史」といった反動的ナショナリズムだ。(日本とアメリカの体制をそれぞれを無批判に自己肯定するという違いはむしろあるにせよ)こうした「独善国家史観」の流れが90年代後半に台頭し、現在のより露骨にレイシストな嫌韓・嫌中言説の地下に上っていることは言うまでもない。

アメリカにおいてこうした議論の軸が主流政治の場面ではっきりと言語化されたのはテシックが論考を書いた92年に、共和党予備選で負けたバット・ブキャナンが共和党全国集会で行ったブッシュ支持の演説だ。ブキャナンはリチャード・ニクソンのスピーチライターで、大統領だったトランプを熱烈に支持してきた極右政治家である。

ブキャナンはこの歴史的な演説で「冷戦は終わった。冷戦に続く新しい戦いは『文化戦争』だ」と宣言する。「文化戦争」においてブッシュはわたしたち保守の側、つまり中絶反対、銃規制反対、福音派的な宗教的価値を擁護する側に立っていると述べた。そして敵対者として文化的にリベラルなクリントンたちを位置づけ、「戦争」という物騒なアナロジーを用いた。

しかし、少し考えてみればわかることだが、この物言いはとても奇妙な発言

(7面から続く)

だ。共和党も民主党のいずれも、支配階級の異なった領域や勢力を代表する資本主義体制の二大政党ではない。政策上の相違点やレトリックの違いがあるにせよ、両者とも、冷戦時代を通じてアメリカの軍事主義を同様に拡張してきたし、企業資本主義を忠実に支えてきた。しかも、この冷戦直後の時期の民主党主流派は、その社会・経済政策をレーガン大統領のもとで過激に右傾化した共和党のそれとほとんど変わらない方向に舵を切っていた。この大統領選で勝つことになるクリントンはまさにそうした「新しい民主党員（ニュー・デモクラット）」の代表だった。

こうした政治的相違点が消滅する二大政党の均衡状態の中で「文化戦争」に訴えることは、現在進行中の資本による労働者や大衆に対する実際の経済的戦争を隠蔽する打ってつけの得策だった。ブキャナンは自身が言っていることを信じていたかもしれないが、彼が宣戦布告した「文化戦争」は虚像の対立にもとづいてきた。本質的に何も変わらなない二大政党のあいだに文化的価値観によって定義された保守対リベラルの対抗軸だ。それはマスコミや政治家や知識人の言説を通じて拡大再生産され続け、一般のアメリカ人の政治意識を乗っ取ってしまう。

このイデオロギー的攪乱は今日まで続いている。最近の反ロックダウンやストップ・ザ・スティール運動をアメリカのマスコミは文化戦争の一環として報道しているし、バイデン政権のリベラリズムは新自由主義経済路線を頑なに維持し、人種やジェンダーをめぐる文化的領域から出ようとする。女性的人工中絶の権利を守ったり、奴隷解放を記念する「ジュニーン・ティーンズ」(6月19日)を連邦政府の祝日にしたりすることはもちろんいいことだが、それだけではレイシズムやセクシズムのしわ寄せがもっとも行く貧困層の黒人や女性が直面する本質的問題は蔑ろにされ続け悪化するだけだ。「文化戦争」に終止符を打って「人間の顔を持つ資本主義」を立て直す政治的意志をバイデンは何も示していない。

じつは「文化戦争」は元来ブキャナンが意図するよくな攻撃的なイデオロギー的語彙ではなかった。ブキャナンによる演説の前年の1991年に宗教社会学者ジェームズ・デヴィン・ハンターが出版した『文化戦争—アメリカを定義する闘争』では、アメリカの国民国家の新しいアイデンティティを模索する必要不可欠な過程として「文化戦争」が肯定的に提示されている。ハンターは80年代に広まった宗教者の新しい政治行動に注目していた。当時の中絶反対デモでユダヤ教のラビ、カトリック神父、

プロテスタント牧師がスクラムを組んで市民的不服従をする光景を目の当たりにして彼は驚いた。20世紀初めに、KKKなどドラングロ・サクソン系の優越性を主張する組織や勢力は、カトリックやユダヤ人を排除・差別していたのに、そうした宗教間の葛藤がなくなっている。そればかりか、中絶・宗教・性教育などの価値観をめぐる連帯が結ばれ、新しい社会運動が開始している。それはアメリカの新しい国民統合のアイデンティティにつながるだろうとハンターは楽観的な展望を描いた。

じつはそうならず、ブキャナンの「文化戦争」がアメリカの民衆を分断し、分割統治になっていく。ハンターはブキャナンやトランプに批判的だが、彼が望んだ文化的統合は到来するどころか、ますます実現不可能なユートピアの蜃気楼として遠ざかっている。アメリカ思想史に造詣が深く、フィールドワークを丹念に行ってきた優れた社会学者がなぜこれほど時代を誤読してしまったのか。

一言でいうとそれは「価値」を単に文化的現象として資本主義の現実や階級関係から切り離して考えしまったからだ。宗教やジェンダーや人種や家族などをめぐる「価値観」は千差万別でありうるが、それはわたしたちが生きている生活やそれを規定している権力構造の中でしか発生しないし、機能しない。

こうした価値をめぐると「文化戦争」を根本的に解決できるのは、資本主義における交換価値と使用価値の対立の中でそれを慎重に吟味し現実的に位置づけ直せる運動だけだ。一方的な資本の階級戦争の隠れ蓑として利用されてきた「文化戦争」を終結させるためには、わたしたち自身が「文化戦争」の前提をひっくり返す階級闘争を想像しなねばならない。米国議事堂襲撃が資本主義そのものを襲撃する集団行為ではなかったことに敗北感を覚え、労働の経験にもとづく幅広い根源的な運動を生み出そうとするラディカルな政治的想像力と歴史意識が必要だ。

石をパンに変えろという悪魔の誘惑に対してイエスは「人はパンだけでは生きられない」と答えた。アメリカの民衆の意識と精神を40年も消耗させてきた「文化戦争」はまさにそれを悪い意味で証明している。パンを求める闘争は、文化や宗教や慣習といった価値観に常に媒介される。資本の交換価値に対する労働者の使用価値の闘争は、こうした経済的範疇を超えた日常生活に根ざす多様な複雑で矛盾する「価値」に究極的に由来する。これは近年の社会史がわたしたちに教えてきたことだ。現存する民衆運動はそうした教訓をまだ十分に生かしていない。

9・24世界気候アクション



9月24日、世界各地での世界気候アクションに連帯して、全国の自治体庁舎前でのスタンディングが行われた。都庁前では漢人あきこ都議らがスタンディングを行った。



9月18日、「日朝ピョンヤン宣言19周年集会」主催は朝鮮半島と日本に非宣言19周年集会 朝鮮戦核・平和の確立を市民連帯の再開を」が都内で行われ、130人が参加した。

日朝国交交渉再開を ピョンヤン宣言19周年集会

9月18日、「日朝ピョンヤン宣言19周年集会」主催は朝鮮半島と日本に非宣言19周年集会 朝鮮戦核・平和の確立を市民連帯の再開を」が都内で行われ、130人が参加した。

取り組む力がある国ではない。バイデン政権の北朝鮮政策は朝鮮半島の完全な非核化を目指すというもの。トランプ政権の『完全かつ検証可能で不可逆的な非核化』とオバマ政権の戦略的忍耐の間だろうか。圧力ではなく、外交・対話の戦略は日米韓の結束を強固にし、米朝間の実務者協議を進め段階的非核化を目指すものと解釈できる。

日本の取るべき立ち位置だが、シンガポールなど東南アジアからは米国が中国かを選ばせるという声が上がっている。日本は既に大国ではなく、ミドルパワーに過ぎない。日本が米中日の三角関係と想っているのは錯覚。日本は米中対

ウィシュマさん ビデオ全面開示 を求め一斉行動

入管は、ウィシュマさん死亡前の2週間分のビデオをわずか2時間加工したビデオも遺族にのみ開示(8月12日)。この入管が都合よく編集したビデオさえ、8月10日の「最終報告書」に書かれていない職員による虐待行為、非人道的行為の場面がいくつも記録されていた。

今ホールを持っているのは米側。朝鮮は条件がそろえば非核化する。日本が同時並行で追求すべきなのは、日朝国交回復・関係正常化、北東アジア地域の平和と安全への日本の関与、グローバルな核兵器廃絶への被爆国日本の使命の3つ。

仮に政権交代がなくても非核化の地図は描ける」 朴金優綺さん(在日朝鮮人人権協会)は、国際人権基準から見ても明らかに民族差別である朝鮮学校差別について報告した。